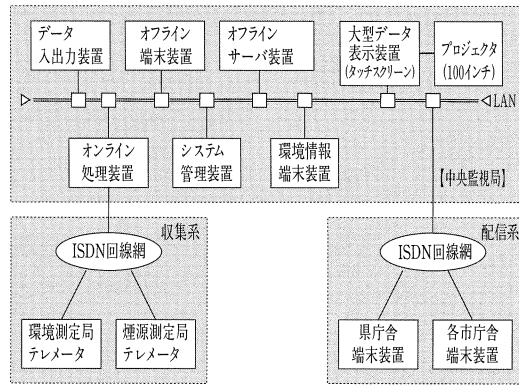


大気汚染状況を監視する環境監視システム



環境監視システムの構成例

環境監視システムは、地方自治体などの大気汚染状況を常時監視し、緊急時における地域住民への周知や環境情報を公開することを目的とする環境行政の支援システムである。

本システムは、各地の環境測定局および煙源測定局と中央監視局とを結ぶデータ収集系と、中央監視局と県庁舎や各市庁舎とを結ぶデータ配信系で構成している。

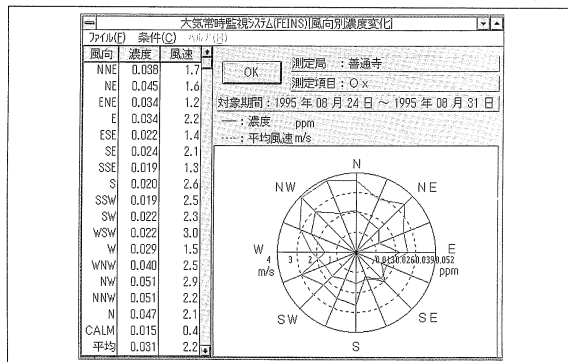
環境測定局は、二酸化硫黄、窒素酸化物、オキシダントなどの汚染物質と気温、風向、風速などの気象情報を測定する。また、煙源測定局は、県下の主要企業（工場）の協力によって、各企業から排出される硫酸酸化物、窒素酸化物の排出量を監視する。

各測定局での測定データは、テレメータ装置でISDN回線網を介して、毎正時（1時間に1度）お

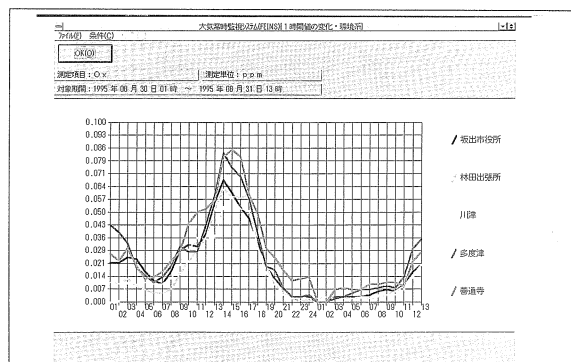
よび随時（必要時任意）に中央監視局へ集信され、オフラインサーバ装置に蓄積される。

中央監視局は、LAN回線で結ばれた上図の各装置によって構成され、各監視画面への表示、データ蓄積および各種帳票の出力などの監視、統計解析業務を行う。また、大型データ表示装置のプロジェクトは、切替えによってオフラインサーバ装置やオフライン端末装置の表示内容を投影できるほか、見学者用の操作部にタッチスクリーンを使用することによって、視覚的で分かりやすい操作で最新の環境情報を理解できるようにしている。

県庁舎および各市庁舎の端末装置は、ISDN回線網を介して、中央監視局で処理された大気測定データおよび環境情報データを、即時に取り出すことができる。



環境情報の表示画面例(1)



環境情報の表示画面例(2)